国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

石州銀山紀聞

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』請求記号　ろ二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　ろ二-34

ろ二
特別
34

るニ4
石州銀山紀聞

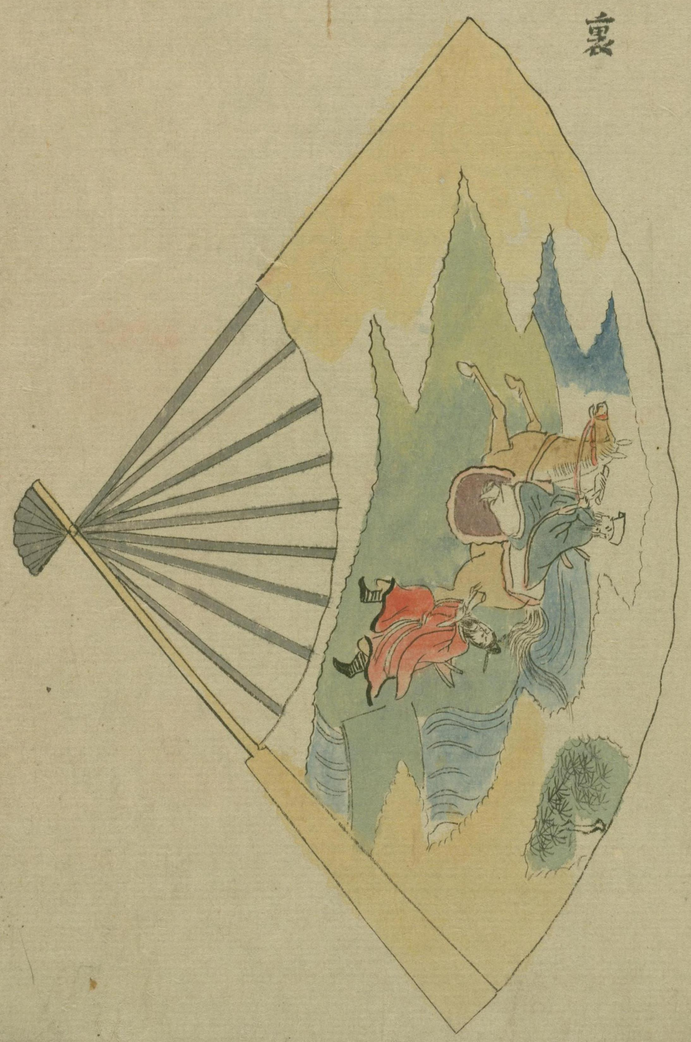
石州銀山見聞草稿

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 るニ-34

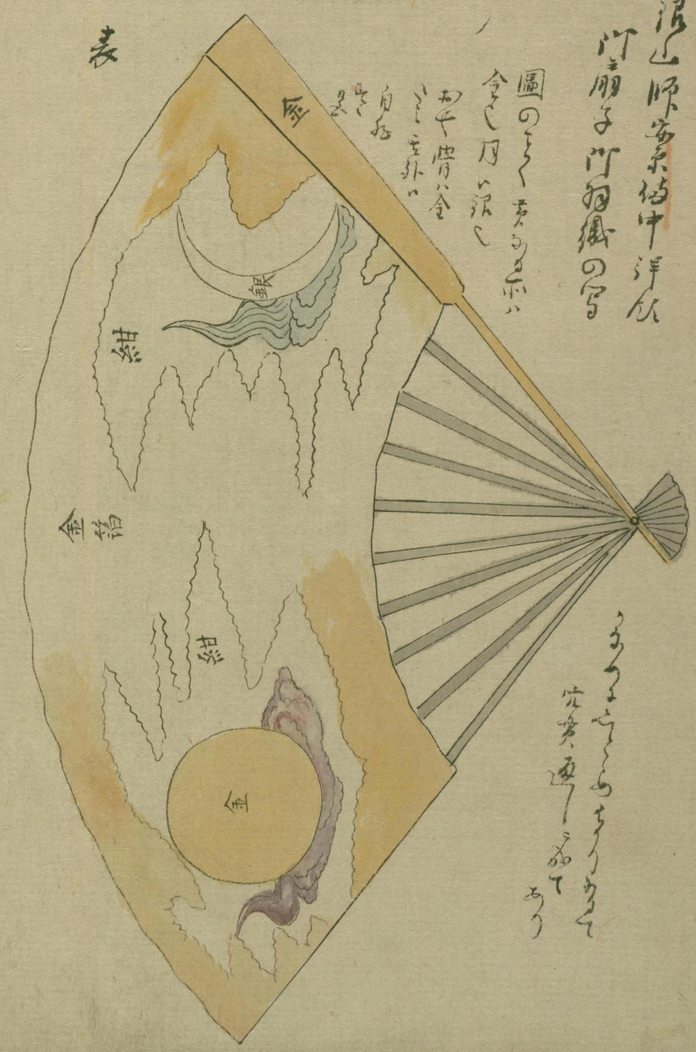
国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

裏



表



国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

石州迩摩郡佐摩村銀山師安原海平洋飯
河村織河扇子銀峯山法水寺ノ何ヲ記
文化七年年六月石河二原ガ今年寄ル
河村織奉納書
奥ニ人王一百八世大上天皇ノ御宇武将相國
源ノ家康公ト奉申武勇蓋世草如風加悉偃握六合掌依政道
正恵萬民帰正路天下治一説寔諫鼓苔深而鳥不驚河代成者
四海波静ト野之末山ノ奥迄民圓徳閣仰之傾首事不浅唐賢王ノ
御代ニハ驥驎風風生現ス日域聖朝幸ニシテ諸國金銀涌出ノ山ヲシ
能夫當石州銀山為此奉行大久保石見ヲ以テ三後源兼射殿
紺
紺
紺

四海ノ静謐ノ野之末山ノ奥迄及国徳ヲ仰之傾首事不浅唐賢王ノ
御代ニハ騏驎鳳凰出現ス日域聖朝ニ于テ諸国金銀涌出ノ山多シ

然ル夫當石州銀山為御奉行大久保石見守殿ニ被仰付御發足
小判銀子御吟味所下知被成所ニ我常信敬当国清水寺被建立
所ニ或夜不思議ノ夢ヲ見玉フ汝心直而慶心於人和合為安
水道ノ所ニ於テ寺建所ト有ル天下ニ可被其名此所ニ任
所ニ参リテ見玉ヘハ其夢ノ如ク具ニ在ル故中堂ヲ建立有
所御銀山ノ成就ヲ祈有リ其ノ後此山繁昌无疑財宝自
ラ下頓テ所出銀高顕シ依之自然ト民豊ニ及ヒ金ヲ人ニ与ヘ人
群集シ十万餘ノ家ヲ建程ニ成ル而六谷ニ諸職ノ者起ル日ニ作リ
家々富貴ニ成ル而佛宝塵ヲ納ル所ニ至リ或ハ堂社ヲ再興
頼ミ在ル大ナル功徳ト成ル
公方様於テ石州安原備中寺観世音ニ依テ所銀出ル

盛成由緒之上者
公方様御上意ニ古ヘ帝ノ御宣旨ヲ以テ被下御利生至末世流
所也ト所感ノ餘ニ忽其安泰ヲ呼上セ其ノ後御覧之後ニ御上意
下ル正長八年七月上旬ニ被上ル以前ノ此宗山所ヲ被為越
参向シテ其ノ霊験ニ依テ勝自金銀性シ奇特ナル事共有故ニ
出シ是ヲ被為召八月ニ於伏見ノ御所ニ大久保石見守殿御取次ニテ
御目見仕ル時黄金一両ト御褒美ヲ被下被仰付モ此外ニ達ス可
積累 御上意ニ可然ト被仰出スル時 御上意ニ其ノ事能々承
御成銀性ト名ヲ被下御覧被成御感不斜 御前ニテ御
請大名衆方々ニ被下所其ノ名ヲ白銀ト云フ銀ト云
小座ノ御届有 御上意ニ大久保石見守殿ニ被仰付ル成

公方様御上意ニ御意ニ被成下 御舟ニ御召被遊
御其生涯ニ面目ヲ施シ之ヲ御諚ノ御褒美 仕ル所也
上様為成御召御職御扇子ヲ被下置ヲ頂戴ノ更ニ
巨濃ニ被下置ハ亦為御上意 小座御作成ニ被仰下御拝
受 御上意明ニ四方ニ御所ニ御手ニ石銀也 御拝
領 御上意下ニ石見守殿ニ御作ニ也 御任御手ニ為ル早身ニ
御褒美ノ御状ニ任テ此事ニ到ル
公方様御羽織ヲ御拝領 御仕合ニ是日 御請大名衆
ニ有 大猷公ニ於テ安原銀ノ御扇子ニ御拝領有
御拝ノ御扇子ヲ御拝領仕ル 子孫ニ至迄ニ御用
之宝ト一三ハ為名利ニ非ス之ヲ以テ 御経ヲ為ル

為後証ニ此御奉書之写ヲ以テ此所ニ置ク者也

[illegible]

為後[illegible]

于時慶長十年乙巳

三月十七日

安東備中

因繁

延宝天和之比迄用之

摂津

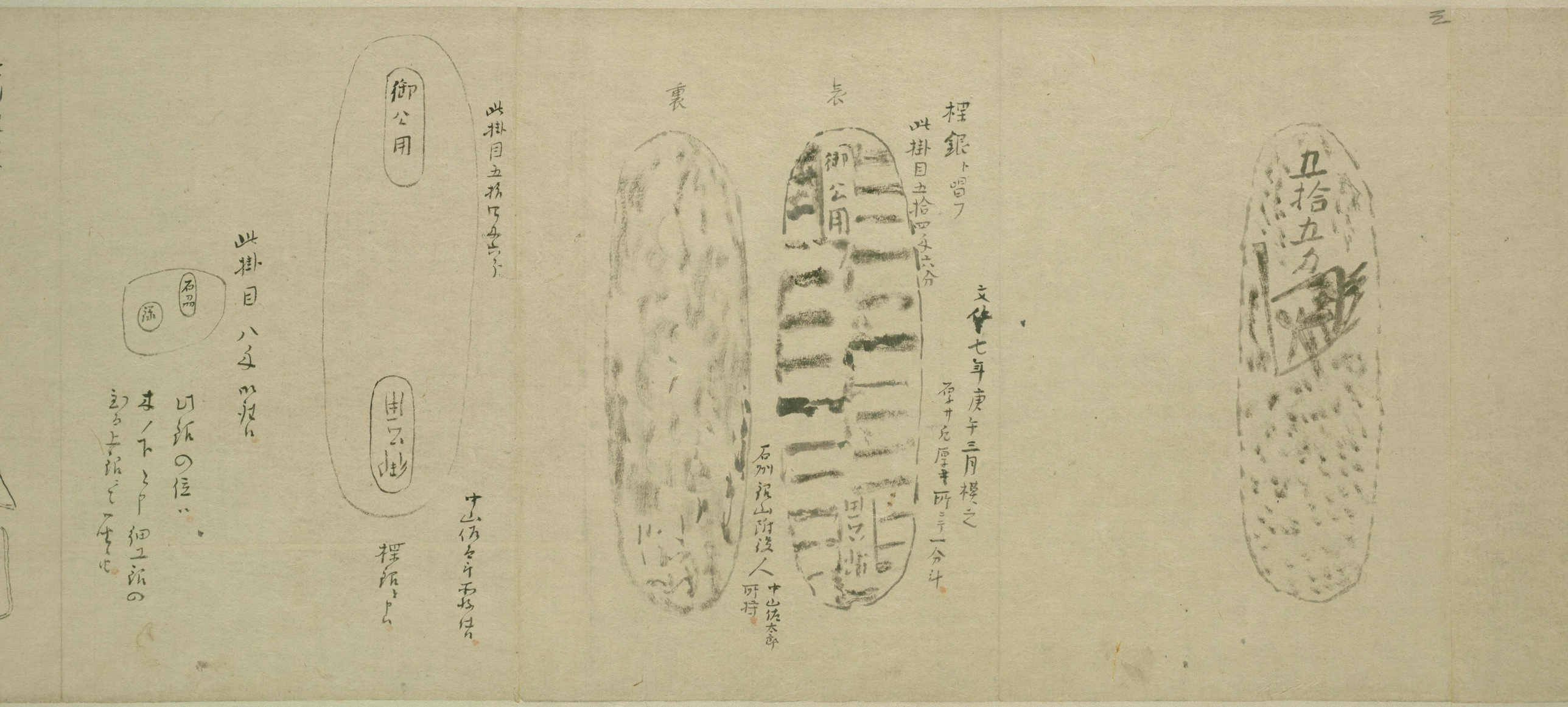
いつるて沢

掛目五拾匁[illegible]

御公用

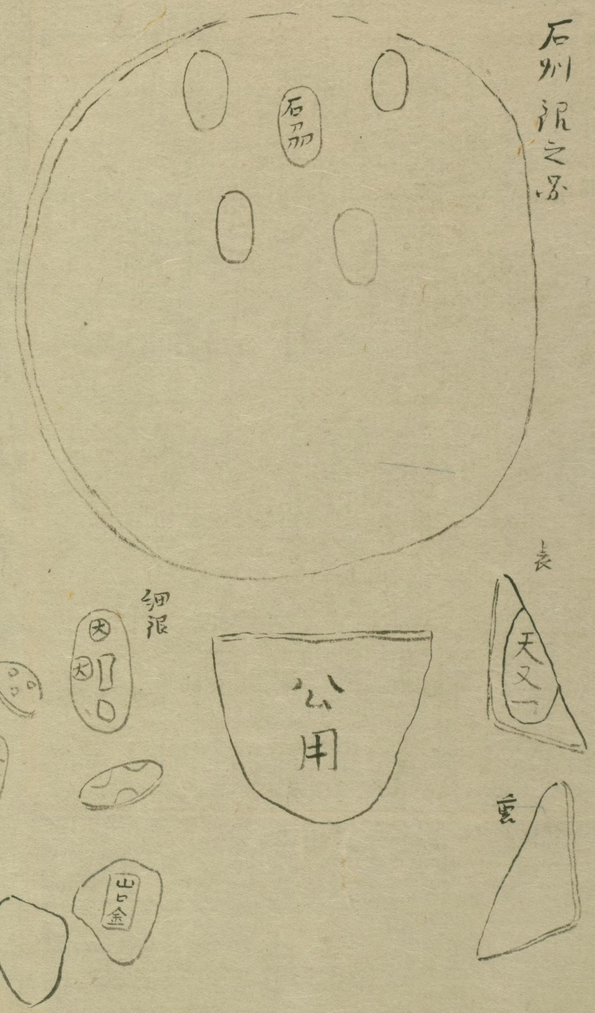
御公用

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34



国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

石州銀之器



エギレ銀

右石州古銀の器にして 以通りし銀実に古い物有し
いろいろ有しとて 形室サホ有り 又且いつ此所ハ
いつ此邑用ハ又 以外にも古銀等 形容ハ不有さ
事なり

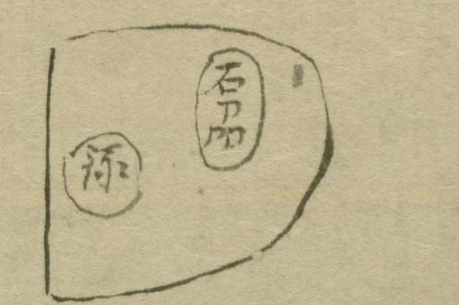
一 銀山記之内 大久保石見守 諸国金銀山ノ事ニ付ル
よし 其所付ハ
御朱印ハ頂戴とあるし 右ニ写ハ無之
ここに 吉岡氏の子孫 物ニ付ルとなり

一 同所之内 山中家にも 手也 有し 迄右不苦 其所ニ
之ヲ

右ニ外銀山の事ニ付 四記ホ有しハ 所ニ有

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』 請求記号 る二-34

此銀ノ位ハ木ノ下ト申
細工銀ノ位ニテ至而
上銀ノ由



此掛目八匁ござ候

此ほと切銀(キリガネ)とて銀を切て通用いたし候
いにしへ石州と極印いたし切銀にいたし候
いつの比か此代不知古き物ニ候
銀山役人へ相尋候

大永六丙戌三月廿二日神谷入雲州鷺銅山仲間三島清
右衛門浜田寿禎博多神谷寿貞山大工
吉田藤左衛門於紅孫左衛門右三人召連
而越連ておよせ候処大永七丁亥年八月十六日吉田藤門に誠を
守孫左衛門を殺す当山大工安人か殺害ニ至る
故に御神を建て山神と奉る今に山神也
三嶋清右衛門と寿貞銀山を開き安人連て入
九州に送る天文二年博多宗丹并桂寿与申
連越同年八月初て銀を吹出す享禄元年初て大森
銀山奉行安人周防守山吹屋連上京
に至る[illegible]大永より天文迄[illegible]
[illegible]天文九年子八月十六日[illegible]
周防の追[illegible]
在銀取同九年[illegible]　寛永十六卯年より八十年
銀山[illegible]　延宝三卯年より天和二戌年迄
[illegible]
河北家相続
以上御判[illegible]上納候
丁銀[illegible]判[illegible]上納[illegible]丁銀納

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

積五 壽貞弁才天を建立して 天文二三年 八月始ニ

宗丹。桂壽。壽貞 銀山ニ銀を吹かけ 大内より 高田 義稜

銀田石見ニ移す事 吹大工 安藤 大藤 並等 し

役人ニ勝ル事 無ニ 年ニ 百枚死 大内 敗ニ 納ル

町 天文六年 八月 雲州 尼子 銀山ニ押 壽 事 行 小ニ殺ル

天文八年 五月 大内ニ押入 尼子方を 進 掛 内間政 事を 行 無ニ

町 田 布山谷ニ銀を吹 五百枚 家 大内 敗ニ納ル 天文十九年

小笠原ニ大久保肥 前守 銀山ニ使 正 切 腹ニ 銀山 又

小笠原 ニ 同十一年 小笠原 出 陸 死ニ 出 笠原 ニ

又 出 陸 山吹ニ入 味 同年 八月 雲 大風 雨ニ 他 の山

大洪水 大 千三百人 死ニ 主 外 此 所ニ 人 殺 ニ

味中ニ水 事 行ニ 役人ニ 勝 死ニ 同 六年 八月 出 陸 死ニ

主 長 旅 文 能 将軍 義 輝 ニ 時 同 八年 将軍 酒 毒ニ

死ニ 永 保 三年 二十三年 入 勝 し 出 笠原 文 能ニ

元 保 十 五年 百 五十 五年 成ニ 永 保 四年 十 六月 毛利

元 能 ニ 銀山 ニ 成ニ 山吹ニ 能 ニ 能 ニ 尼子 方ニ 安 藤 ニ

元 人 の 通 ニ 殺 ニ 能 ニ 毛利 方 と 尼子 ニ 丑 京

ニ 義 ニ 毛利 方 大 和 大 和 ニ 討 死 ニ 外 八百人 余 も

討 死 尼子 勝 利 ニ 夫 尼子 伊 豫 守 義 久 ニ 体 越 中 守

と 山吹ニ 能 ニ 能 ニ 銀山 無 留 其 所 毛利 方 丑 京 銀山 鬼 墓 間

ニ 正 山 ニ 三年 丑 ニ 又 時 ニ 越 中 守 を 味 方 ニ 付 ニ 能

毛利 ニ 事 ニ 入 越 中 と 山吹ニ 能 ニ 石 見 ニ 保 元 能 ニ 堀 上

雲州 伯 元 能 の 文 能 元 亀 二年 未 六月 十四日 元 能 七十

五 才 逝 ニ 夫 より 輝 元 の 文 能

銀山 初ハ 大永 六 丙戌 年 三月 十三日 出 雲 田 城 村 之 山 ニ 居 ニ

警 銀山 ニ 高田 ニ 元 能 ニ 成 ニ 於 紀 孫 ニ 三人 連 ニ

銀山 ニ 堀 ニ 能 ニ 吹 ニ 翌 年 十八 ニ 十 ニ 敗 ニ 孫 ニ

殺 し 程 ニ 有 ニ 山 林 小 祝 堀 ニ 文 の 壽 貞 代 官

小田 成 ニ 英 陽 を 入 銀 と 買 ニ 享 祿 四 年 銀山 支 能 を

矢 流 城 ニ 小笠原 ニ 責 ニ 天文 二 陽 ニ 受 壽 祿 門 銀 と

吹 初 天文 十三 辰 年 大 藤 ニ 死ニ 其 後 大 内 義 隆 逝 ニ

小笠原ニ 山吹ニ 力 服 其 子 輝 元 ニ 房 家 と 大 ニ

小笠原ハ行ヒ無ク山ニ山吹ヲ切根其源辨元ハ房宗ニ大工、
以定山林ニ而守者天文十八年房宗久且始建立寺領
五石石見守称ハ以等所同五拾石山林領より同銀山元和公
以文配者元和二未年ハ天正年中ニ公万秀吉ニ取長ス
子ニ年以年ノ二度後小形領同年ハリ又又深十年石見清
号同十八丑年四月五日死ス寛永十二亥ニ其後年所村
母後ニ以ス能元和五ハ百六十四年ニ成ル深田領ニ万
四百拾石余百三拾村秀吉二丑年相平国清ニ成ル
元和二巳年津和世領四万三千六拾石余永井孝清ニ
成ル四万五千石百四拾村銀山所ニ成ル寛永十二亥所村

十五宮 寛永十八巳 移田九千余地相三千和徳十九枚同
六ニ所万治三子年同文ニ寛永九未年吉水領ニ万石
其ノ村加賀ニ成ル御ニ成ル寛文廿年山ニ子孫ニ延宝廿
年永田領ニ成ル貞享元年松徳信ニ元禄五申年也
七ニ元和二戌年ニ成ル相平ニ成ル此ニ万石吉水銀山
所合四万七千石余百五拾村ニ成ル元禄十一年ニ成ル寛永
宮永四亥年井戸治ニ成ル同巳年銀来少ニ年ニ山徳より宮保
元年ニ改ル八ニ成ル吉保辰年所田吉ニ成ル同未年ニ深清
化ニ成ル同亥年清水ニ成ル同巳年井戸平ニ成ル以明ニ
以ニ来ル同辰年布施ニ成ル元文二巳年関大ニ成ル延宝

元年平宮元年ニ成ル同巳年六月大水久能鍾百姓一揆
起ル百四拾五村深田ニ成ル寛延未年宮厚川浴
平ニ成ル明和四亥年ニ成ル明和五年蓑笠ニ成ル
安水五申年ニ天明五巳年川浴平ニ成ル天明六年ニ成ル
笠ニ成ル寛政二年十二月銀江戸ニ成ル岡府寛政三年
茂谷ニ成ル寛政六年六月大岡深ニ成ル文化二丑四月五日
上世四千三百

銀山旧記

折石見国銀山開起ノ由来ヲ尋ルニ人王九十代
後宇多院建治二年ニ蒙古ノ使日本ハ来リシニ

銀山旧記

折石見国銀山開起ノ由来ヲ尋ルニ人王九十代後宇多院建治二年ニ蒙古ノ使日本ヘ来リシニ如何成故有シカ鎌倉ニテ彼使ヲ殺シケリ其後五年迄弘安四年五月廿一日蒙古ノ軍兵二十四萬人兵船四千艘ニ乗日本ヲ攻ントテ九州ニ寄来ル帝大ニ驚給ヒ官軍ヲ差向テ九州ニテ防カシメケレ共蒙古勢ニ強リシテ官軍討負シカハ蒙古イヨ〳〵勝ニ乗リ都ニ攻上ラントシケリシニ

賜蓼堂

我国ノ神力ニテ神々波ヲ揚給ヒシ故ニ蒙古ノ賊船悉ク破レテ我国恙ナカリケリ其後人王九十四代亀山院ノ御宇将軍守邦親王ノ執柄ノ時ナリ周防國主大内介弘幸ハ鎌倉ヲ恨ム事有テ謀叛シテ軍ヲモヨシ軍兵ヲ蒙古ニ請ケルニ蒙古ノ人昔ノ恨ヲハラサントテ軍兵二十万騎数千艘ニ打乗リテ石州益屋ヲ貞時大ニ怒テ和睦ヲトゝノヘ共弘幸承引セサリシ故帝ニ此由申上ケレハ帝陽禄門院ヲ

弘幸カヲ修理大夫弘世ニ妻合石州ヲ賜リケレハ弘幸ヤカテ和睦シケリ是ニ依テ弘幸蒙古ノ軍兵帰サントスレハ蒙古ノ人鎌倉ニ恨有カ故ニ戦ヲ好ニテ回ヘ帰ラス弘幸為方ナカリケリ爰ニ防州秋上山ニ登ル北辰星ハ代々大内家ノ守護神タリ大内介ニ託宣シテ曰ク石州益屋ニテ百済ノ軍兵ニ逢ヒ(逢ヒ給ヒシ)ヲ彼ノ山ヲ取テ下山共言我カ為ニ代ノ地ナリ故ニ生ル物ヲ痛シ本朝ノ差ヒ(差ヒ)ヲ教ト新ニ託宣アリケリ

賜蓼堂

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

故ニ生捕シ浦ヒ本朝ノ危ヲ救ト新ニ託宣アリケリ

賭春堂

又幸神ノ告ニ任セ石州銀峯山ニ登リ見レハ山下山上皆皓ニ於トシテ冬ノ日向山ノ雪ヲ踏カ如シ大ニ驚キ且ツ怪ミケレハ崇古ニ粋記ヲ以テ百濟ノ軍兵ニ非ヤト告ケレハ崇古憤ヲ宥悦ニ因テ帰リケリ是ヨリ銀峯山ヲ後テ祝ヲ出シ大キニ望ケレハ隣国ノ大小名各ヒヲ取ントテ其間ヲ窺ヒケリ是ヲ以テ山吹山ニ城ヲ郭ヲ築キ而祝ヲ後リ其後建武延元ノ大乱ニ足利方ニ参ル依テ直冬ニ当国ヲ攻テ四十八塚ヲ陥シケレハ銀山ヲ押領ス此時悪ノ祝ヲ去セケリ

此時近キ比ヲ掘リ洞歩ヲ開事ヲ不知シ故上銘ノ祝ヲツクシ如此山衰ヒリ大永年中ニ大内介義興當ヲ領スル時所々ノ村多ニ神谷寿亭ト云有生品ヘ行ントテ一ツノ船ニ乗リ石見国ノ海ヲ漕ルハルカニ南山ヲ望ニ赫赫タル光リアリ寿亭船ヨリ彼南山ノ赤リアキラカ成光リアルハ何故ニヤト問ケレハ船頭答テ申ケルハ是ハ石見ノ銀峯山ナリト語リ侍ケリ彼峯昔シ祝ヲ出セシカ余絶タリ唯観音ノ尊像ノミ有テ此山ヲ鎮ス寺ヲ清水ト

賭春堂

蜀山秘書

寺ト申ス時ヲ此應現有此山ニ度ニ銀ヲ出ス云瑞ナルカ今タノ霊光常ノ時ヨリ十倍ス量知貴公ノ信心観音大士ニ通シケルナラント窓ニコソ語リケレ寿亭大ニ悦ヒ帆ヲ巻キ漕ヲ繋キ温泉ツ湊ニ入テ夫ヨリ銀峯山ニ登リ観音ヲ拝ヲ奉リ本船ニ帰テ雲州ノ鷺浦ニ入ケリ彼浦ニ銅山有ケレハ寿亭赤金ヲ商賈センカ為銅山主ニ島清右衛門ニ逢テ清右衛門ハ雲州口田儀ノ住人ナリ石州銀峯山ノ霊光ノ事ヲ物語リシケリ三島是ヲ聞テ申ケル

八定而白銀十万ンカ二百年前周防ノ大主大内

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

霊光ノ事ヲ物語リシケリ三島是ヲ聞ニ申ケル

ハ定而白銀ナランカ二百年前周防ノ大主大内弘幸北辰ノ託宣ヲ感シテ大ニ銀ヲ得タル事有今ニ至ル迄人毎ニ言得フ如何様ニモ疑フヘカラス願クハ彼峯ニ登テ銀ナルヤ否ヲ試亦霊佛ヲモ拜奉ラントテ神谷三島相共ニ大永六丙戌三月二十三日ニ三人ノ穿通子吉田與三右エ門同藤左エ門於江孫右衛門ヲ引連テ銀峯山ノ谷々ニテ石ヲ穿チ地ヲ掘テ大ニ銀ヲ取寿亭皆收取リ九州ニ帰リケリ是ヨリシテコソ石見国馬路村ノ灘古柳鞆カ岩ノ浦

蜀山秘書

賭春堂

賣船多ク来リテ銀ノ鏈ヲ買取テ寿亭カ家冨従類廣ク榮ヘケリ銀山モ亦諸國ヨリ人多ク集リテ花ノ都ノ如クナリ享祿元年大内義與矢瀧ノ城主ヲ以テ銀山ノ押トス 矢滝城銀山ヨリ一里計リ南

此時小笠原長隆志谷修理大夫平田加賀守ヲ以テ矢瀧ノ城ヲ攻落ス頃ハ享祿四年卯二月下旬也長隆銀山ヲ領スル事三年ノ中銀ヲ出ス事夥シ天文二年大内復銀山ヲ取返シテ吉田若狭守飯田石見守両人ニ仰テ銀山ヲ守護シケリ此年寿亭博多ヨリ宗円桂壽ト言者ヲ将ヒ来リ八月五日相談シテ鏈 銀ト石ト相マシハル物ヲ鏈ト云ナリ ヲ吹鎔(トカセ)銀ヲ成ス事ヲ仕出セリ是ヲ銀吹始成大工ハ采女之丞大蔵之丞ナリ吉田若狭守飯田石見守是ヲ奉行シ毎年銀子百枚ヲ大内ニ貢納ス其後天文六年八月十六日雲州ノ尼子銀山ヲ攻吉田飯田ヲ誅戮ス吹大工采女尼子ニ従ヒテ銀ヲ吹ク小笠原福屋三隅益田等ノ諸士皆尼子晴久ノ旗下ニ成ケリ天文八年五月下旬大内介復銀山ヲ責テ取返シ

蜀山秘書

賭春堂

正重ヲ以テ奉行トナシ大蔵之丞坂治郎采女之丞

ケリ天文八年五月下旬大内介復銀山ヲ責テ取返シ

蜀山秘書

正重ヲ以テ奉行トナシ大蔵之丞坂治郎采女之丞等昆布山谷ニテ銀ヲ吹毎年ノ運上銀五百枚ナリ亦天文九年九月十八日小笠原蜂起シテ大久保肥前守大谷遠江守ニ仰銀山ヲ騒動ス数度攻戦フトイヘトモ不叶シテ終ニ奉行内田正重自害シテ銀山亦小笠原ニ属ヒケリ同十一年小笠原長隆死去同年下旬小笠原兵部大輔長徳山吹城ニ入ル同年八月四日大風雨有テ人多ク死ス同十六年八月廿一日長徳死ス其子長雄明年三月城ニ入

賭春堂

享禄四年ヨリ永禄三年ニ至リ二十年餘ノ間小笠原銀山ヲ領ス其以後毛利元就銀山ヲ取平賀山城守高畑源四郎ヲ山吹ノ城ニ置ク時ニハ永禄四年五月ナリ尼子本城越中守其子五人ニ五千餘騎ヲ副ヘ須佐ノ高屋倉ニ差ニテ藝州石州ノ通路ヲ塞シカハ銀山ハヒヨリ糧ヲ絶ツ是ニ依テ毛利二万八千人ヲ以テ別府忍原ニ於テ尼子ト合戦ス毛利カ軍利ナクシテ大将大蔵左衛門尉討死シテ尼子討勝山吹ヲ攻落シ

蜀山秘書

賭春堂

平賀高畑ヲ自害セシム頃ハ永禄四年ノ秋ナリ是ヨリ尼子伊賀守義久銀山ヲ領シ本城越中守ヲ以テ山吹ノ城ヲ守ラシム此時銀ヲ出ス事大ナリ毛利銀山ヲ取返サンカ為三年ノ間忍ヒノ者ヲ忍原村劔山鬼茶臼ノ谷々ニ置隙ヲ窺フトイヘトモ尼子大軍ノ故スヘキ様ナカリケリ元就力ヲ以テ取リカタキヲ知リ謀ヲ以テ本城ヲ降人トナサシメ戦ハスシテ終ニ銀山ヲ取リ吉川元春家臣森腰市郎左エ門ヲ以テ銀山ヲ守ラシム

元亀二年六月十四日元就死ス其嫡輝元相續

トナサシメ戦ハスシテ終ニ銀山ヲ取リ吉川元春
家臣森腰市郎左エ門ヲ以テ銀山ヲ守ラシム

元龜二年六月十四日元就死ス其嫡輝元相續
テ銀山ヲ領ス其後天正年中秀吉公ヨリノ上使
近実若枝守毛利家ヨリノ使三井善兵未銀山
ヲ奉行ス慶長一統ノ後彦坂小刑部大久保
十兵未ヲ奉行トシ給フ慶長十四年永田大隅
守同十五年三坂枝源戒同十六年増島左内
銀山ノ御目付トシテ下リ給フヨシ得ヘ兼ル天正
年中ニ安原田兵衛草壁真人知種ト云者有
備中早島ノ人也来リテ本谷ニ住居セリ久安

蜀山秘書

銀山ニ心ヲ尽シケレ共金銀費ノミニシテ外ニ方術
モナカリシカハ常ニ歩ノヲハコフ清水ノ観音ヘ祈奉ル
ヘシトテ七日精進潔齋シ誠ヲ尽シ祈シカ第七日
ト申晩カタニ銀ノ釜ヲ賜ルト言灵夢ヲ得時ノ
御奉行大久保石見守殿ニ言上ス此石見守殿ト
申ハ
東照君ヨリ六十餘州金銀山ノ奉行タルヘキノ旨仰ヲ
蒙リ居給シ故諸国金銀山興衰ノ訴有ル時ニハ
公義ヨリ當国ニ扶持シ置給フ諸士ノ内銀山ノ事ニ

預ル者ヲ以テ諸国ニ馳行シメ給其行時ハ必ス
御朱印ヲ頂戴今吉岡氏ノ子孫是ヲ以テ宝トス サテ石見守殿彼安原カ
夢ヲ聞大ニ驚言ヒケルハ我モ亦瑞夢ヲ得タリ疑フ所ニ
アラストテタタノ金銀財宝ヲ賜リ安原間歩ヲ掘ケル
カ霊夢ニタガハズ夥敷鏈ヲ掘出シ無双ノ福人ト成ル
是併ナカラ観音ノ御恵ナリト悦ヒ鏈ヲ出ス間歩ハ
観音ノ夢ノ御告ニ形取釜屋間歩トソ名付ケル
此間歩ヨリ納ル所ノ運上銀一年三千六百貫し
御奉行石見守殿此旨ヲ御上ヘ奏達有ケレハ甚タ

蜀山秘書

御感マシ〳〵ヤカテ安原ヲ召レケリ安原召ニ應シ伏見

御奉行石見守殿此旨ヲ　御上ヘ奏達有ケレハ甚タ

蜀山秘書

御感マシ〳〵ヤカテ安原ヲ召レケリ安原召ニ應シ伏見ノ御所（ニ陳所）ヘ罷登頃ハ慶長八年七月ナリ八朔ノ節句ニハ　大御所様ノ御目見ヲ許シ給ヒ壹間四面ノ盤ノ上ニ銀ノ粋精ヲ積立車ヲ以テ引是ヲ獻上シ奉ル去ハ今ニ至ルマテ石見国銀山ノ運上銀ヲ大坂御城納ニ車ニ載テ引事ハ此吉例ト兼ル　大御所様權現様ヲ言フナリ　イヨ〳〵感シ給ヒ受領ヲ御免有テ備中ト申ヘキ由　仰有其上自ラ着給フ所ノ上服并御扇子（今清水寺ニアリ）賜ヒケリ亦彼大坂陣ノ時水道ヲ塞キ

賭春堂

堀（水）ヲ拔トテ當国ノ掘子ヲ召給フ此時ノ御奉行竹村丹後守殿銀山諸士ノ内山中市兵衛国村田中久右エ門重時厚東多左エ門村尚ヲ撰出シ安原備中渡辺備後此両人ノ手下ノ掘子三百人ノ大将トシテ備中備後ハ宰領人トシテ大坂ヘ送リ遣シ水道ヲ切断堀水ヲ拔シカハ落城ニ及ヒシ事比類ナキ功ナリト　大御所様ノ御感有其時ノ書物山中氏カ子孫今ニ是ヲ傳ヘタリ凡銀山開起ヨリ多クノ年月ヲ經ル其間或ハ衰或ハ盛ル事幾度ソヤ就中

蜀山秘書

慶長ノ頃ヨリ寛永年中ノ大盛士（シカ）稼ノ人数二十萬人一日米穀ヲ費ス事千五百石余車馬ノ往来昼夜ヲイハス家ハ家ノ上ニ建軒ハ軒ノ下ニ連ナリ去レハ銀山近キ津々浦々ヘ四方ノ大船競ヒ繋五穀ノ類ハ言ニ不及和漢ノ珍器重宝ニ至ルマテ多ク集リ来ル事恐ク今日本ノ内此銀山ニ勝ルマシト申傳ヘ侍リ

賭春堂

以名清之

一石州逐摩郡中谷西本十余ヶ村ハ往古ハ出雲領ニ而有之哉ニ
安芸領中ニも有之哉ニ而ハ往古ハ両国之境目ニ而有之候ニ付
石多候ニ而ハ無之候ニ付両国之内ニ而ハ無之候ニ付
御料ニ而ハ無之候ニ付 御代官ニ而ハ無之候ニ付
指上ニ而ハ無之候ニ付両国之内ニ而ハ無之候ニ付
右之通 河上弥市右衛門 河原田清兵衛
大河内権之丞 河上弥市右衛門 河原田清兵衛
右之通 河上弥市右衛門 河原田清兵衛
清兵衛 河上弥市右衛門 河原田清兵衛

西村仕

一天授河陣之節 祖父伯中ニ而 御手組三百人石ニ而
右之役被仰付候ニ付 天正十年ニ
江戸へ罷登候ニ付 御暇被下置候ニ付
右之通 河上弥市右衛門 河原田清兵衛
右之通 河上弥市右衛門 河原田清兵衛
右之通 河上弥市右衛門 河原田清兵衛

一当国 河内之儀ニ付 上様御代之節
御手ニ而 御取上ニ而 御座候ニ付

祖父儀ハ御手ニ而 御取上ニ而 御座候ニ付
右之通 河上弥市右衛門 河原田清兵衛
右之通 河上弥市右衛門 河原田清兵衛

寅ノ年 元年甲子
卯月 吉日

河本弥助様

書置之通ニ而 御座候ニ付 奉行所ニ而 御取上ニ而
清水与右衛門 右之通ニ而 御座候ニ付
右之通ニ而 御座候ニ付 御取上ニ而
河内陣ニ而 御取上ニ而 御座候ニ付 御取上ニ而

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

銀山役人山中百次 [illegible]

[illegible]

[illegible]

有しかる處[illegible]

[illegible]

十二 [illegible]

[illegible]

[illegible]

前同断

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

十

三反帆船弐人宗内三人ハ安海十三郎勘造
杉年備前当国之門
文化七午六月十九日　和田半右衛門　下
井手勘七　下

而已
以書面申

日数弐百三十日切
筑前国瑞祥浦
和兵衛
熊九郎

此本所屋敷の裏なるもの
[illegible]
賢九郎
横山平助

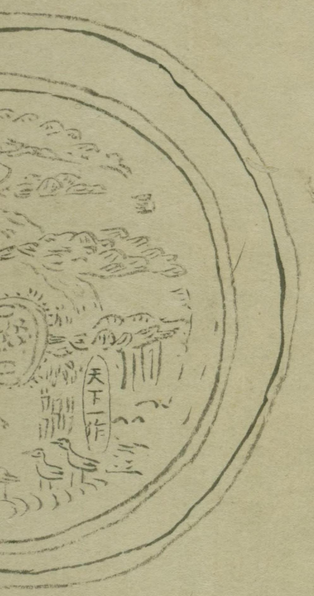
文化七午年　[illegible]　上[illegible]村[illegible]所見

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　[illegible]
福[illegible]村弁当ト申山伏[illegible]
[illegible]
人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号 る二-34

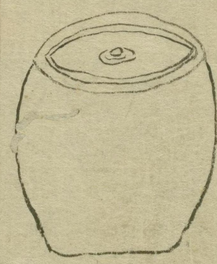
裏



古鏡表

愛宕山大權現
稲荷大明神

鏡之厚



古鏡入有之瓶の器

掘取セツ碎寸法不詳
小略シ出来
右瓶闕如ストコロ
傍ニ伊ノ焼ノ恒合シ

上下村々宿麦在宇五ケナリ

宗五斤

文切ニいくし金ハ中ハ[illegible]

一 [illegible]

一 中銀家村保[illegible]

[illegible]

石州古今名物

邑智刃倉　矢上小鉄　戸川鮎　湯泉津和布

日祖海苔　角津防風　二ツ津蒲鉾　鉋摩鮑貝

濱田沖鯖　三隅汁藻　二ツ津濱基石

石見銘　[illegible]　銘山ニ有　今ハ公儀より此後の外ニ人

石見葛　迩摩郡西田村ヨリ出

一銘山ヨリ所　銅丸　道川久兵ヘ此内久兵ヘ業者の所造

蜀山秘書

一津和州　三和相場を注古より有名見氏已得を頂給

出羽守元和三丁巳年ヨリ四万三千石ニ永井兵部守政矩ニ

賜以御作之銘

津和州銘分細訳

日貫組　日貫　津川　和田　和田　永田

八戸　永谷　近京

上銘組　浜連川　寒水　四世原　茶水　立河内　立戸

六日市　鉛念　有銘　廣石

下銘組　福川　柿木　永知谷　月和田　大世原　七ツ市

三ツ庭　田丸　牧道

河城道　市庭村　牧ヶ世村　藤村　三ツ村

三ツ世村　五十村　中庭村

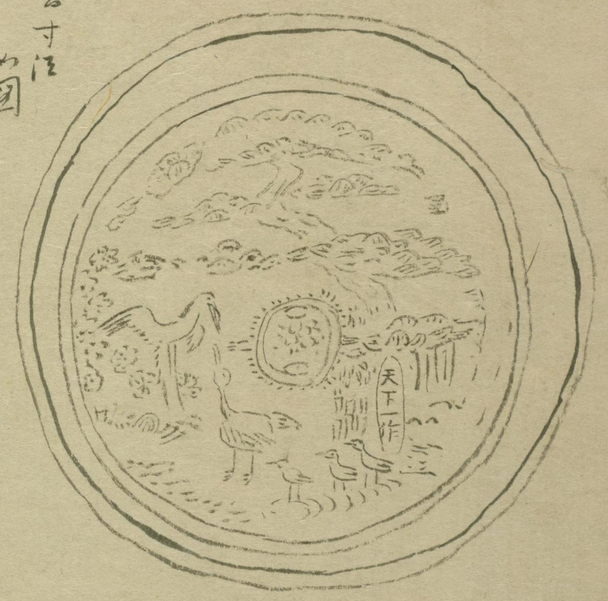
本銘組　下組　吹ヶ世　畑

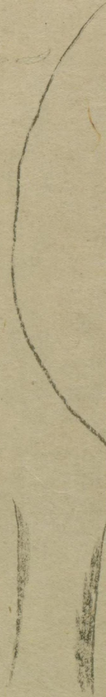
六世　奥ヶ世

賭春堂

裏

銘ヲ寸法如図





国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

黒谷組　上黒谷　下黒谷　堀ノ谷　栃原
桂ヶ平　荒原　銀山
三津組　三津　北ノ子　飯田　次子　中内田
向内田　角井　金比　向上　川也
市京　柿木　戸田
長谷　中原田
横田組　大峯坂　左ヶ山　安富　横田
寺坂田　梅月　又賀
池深組　左池　吉比　杉原
沢川
吉原組　吉原　三坂　扇人　浜谷　柳
石谷　加　服部　向横田　大瀬　三島
小原組　上種　下種　山形
大森　赤瀬
井世村組　世比　今村　大竹　大谷　小原
唐河内　周布比
長安組　長安　日留
大坪　長見

蜀山秘書

久佐組　今福　丸原　今市　久佐　佐世
上来原　下来原
宇津川組　宇津川　桜井川
田世原
波佐組　波佐　荒原
小国
十六組村数百拾壱ヶ村　以上下役残十六人ニ付御代官手代ニ而居り
一濱田　元和五己未年五万四千石古田大膳大夫重治拝領
同兵部少輔重恒　慶安二己丑年松平周防守康映入部　延宝七
己未年同周防守康賢　宝永七庚寅年同周防守康豊
宝暦十庚辰年本多弾正中務大輔入部　同中務
大輔忠盈同年八月　明和六己丑年六月　松平周防守康福
入部今に至り領し

賭春堂

濱田領組訳
幸井組　河戸市組　三隅組　益田組
市木組　出羽組　河見組
三隅といふ村名なし　三隅といふ　東村
西村　弐十二ヶ村并赤米内
谷内々あるし　村々
元禄ノ年上四百八十九ヶ村　内七十七ヶ村
石見国那賀郡今ニ百八十四ヶ村　六郎
内　八拾壱ヶ村　領山　内料　内訳
百七拾ヶ村　濱田領　内訳
百三拾五ヶ村　津和野領　内訳　邑智三十ヶ村　那賀十七ヶ村　鹿足五十八ヶ村
全石高三万七千四百石　九斗

蜀山秘書

賭春堂

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

賭春堂

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34

此圭得一寮友秘本而写之

文化辛未秋

李花園

国立国会図書館　タイトル『石州銀山紀聞』　請求記号　る二-34